飛躍へ 一体感高め理念実践

新年のあいさつ

本学は新年あいさつ行事を1月6日、世田谷キャンパスの多目的ホールで開催した。大澤英雄理事長、佐藤圭一学長、岩渕公一校長をはじめ、役員・教職員ら約500人が出席し、創立103周年となるこの一年のより一層の飛躍を期した。大澤理事長はあいさつで、「組織として学生・生徒への愛情を持った手厚い指導をし、たくましい学生を育ててほしい」と述べ、学園の組織力を強めるため、チームの輪を保って一つのことを成し得る方法を説いた。佐藤学長は、「教職員の深い理解と実践によって、建学の精神と教育理念を具現化し、学園全体へ浸透させてほしい」と期待した。

本学世田谷キャンパスより望む富士山（令和2年1月9日・34号館屋上から撮影）

佐藤圭一学長

新年おめでとうございます。

大学、特に私学を取り巻く環境が、年ごとに厳しさを増しています。この困難を克服するためには、意識の共有化による教職員の一体感の醸成が不可欠です。

そこで私学における建学の精神と教育理念について再確認したいと思います。私学が存在する意義は、国民の負託に応えるために、建学の精神を体現する有為な人材の輩出にあります。従って、私学にとっての生命線である建学の精神を、教職員はもとより、カリキュラムや学風、学生生活にも浸透させなければなりません。建学の精神や教育理念の具現化は、全教職員の理解と実践による浸透が重要なのです。

国士舘舘歌の第2番の冒頭に「松陰の祠に節を磨し」という一節があります。これは、「国のために人のために働くことの志を偲び、国士舘生は礼節を磨くことに努めよ」との意味があり、国士舘は、松陰の精神を範として「国を思い、世のため、人のために尽くせる人材『国士』の養成」すなわち公徳心あふれる人材の育成に取り組んでいるのです。

そして、教育理念である「誠意・勤労・見識・気魄」について、この四徳目には順序があります。誠意とは私心を控えることです。そして誠意に基づく勤労が大切です。勤労とは、世のため、人のために働くことです。対して、誠意・見識に基づかない勤労は、時として人間の欲望を満たすための私利私欲に狂奔することに陥ります。見識なき気魄は、虚勢になりかねません。この四徳目を身に付けるためには、不断の読書・体験・反省を実践する三綱領が必要です。誠意・勤労・見識・気魄がみなぎることにより、真の国士が生まれるのです。

私学が置かれる厳しい環境下にあっても、日本人の精神文化を継承する建学の精神・教育理念を高々と掲げた本学には、オンリーワンの大学として選ばれる十分な資格があると考えます。そのためにも、全ての国士舘生に〝国士舘ブランド〟を身に付けるための「国士舘教養教育」の実現が必要となります。

国士舘発展の松明（たいまつ）は、先輩諸兄から我々に手渡されました。我々は、その松明をさらに赤々と燃え上がらせ、次世代に手渡せるよう、努力の傾注を誓い合わなければなりません。日本中がオリンピックの熱気の渦に包まれる令和2年、国士舘においても、歓喜に沸く歴史的一年となることを祈念して、新年のご挨拶といたします。

発展の松明 赤々と次世代に

大澤英雄理事長

新年のお慶びを申し上げます。

本年はいよいよ東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の年となりました。本学園は、多摩市を事前キャンプ地とするアイスランドオリンピック選手団に施設提供をすることが決まっており、また多くの学生がボランティアとして大会を支えます。選手として出場する者も今後決まってくることでしょう。この一生に一度の経験を、それぞれの立場で謳歌してもらいたいと願います。

さて、昨年は平成から令和へと大きな時代の転換点となりました。本学園でも第1次中長期事業計画の最終年度を迎え、その成果や外部環境の変化を捉えつつ、さらなる経営計画と教育改革を示す「第2次中長期事業計画」を策定したところであります。事業計画で掲げた学園のアクションプランを果たすべく、法人と教学が一体となって実行に移していく所存です。

まずは、第1次計画に引き続き、国士舘ブランド醸成の基軸として防災教育を位置づけ、地域防災力向上のための防災リーダー養成教育に関する研究拠点の構築を目指すとともに、防災教育を本学園の一貫教育プログラムとして具体的に編成し、特色ある教育研究機能の強化を図ります。

次に、全国の大学の中で消防官、警察官の合格者数上位の実績を堅持し、教員および行政職も含めた「公務員に強い国士舘」を確立していきます。

さらに、建学の精神に基づく特色ある専門教育の展開を目指し、社会に貢献する使命感と学部の特色を生かした専門性を育成することで、中途退学者の抑制につなげます。

また本年は、110周年記念事業募金を開始するほか、楓の杜キャンパスの竣工、収益事業の検討、大学スポーツ協会（UNIVAS）創設を契機としたスポーツに関わる各種事業を推進します。

昨年の出生数は約86万人と推計され出生率低下が加速する中、今後10～20年が私学経営の勝負どころといえます。本学園の建学の精神「社会に貢献できる人材『国士』の養成」の根底にあるのは「真心を持って人に尽くす」という考え方であり、創立者が学生・生徒に対し深い愛情をもって教えを説くことで体現してきたものです。本学園に浸透するこの考えと学園の強固な組織力を基にさまざまな施策を実行し、たくましく知性のある学生を育て上げ、世に送り出していく所存です。引き続きご理解とご支援を賜れば幸いに存じます。

本年も皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

「防災」一貫教育の機能を強化

たくましい人材 育成へ
「潜在能力見出す努力」誓う

創立102周年記念式典

国士舘創立記念日となる昨年11月4日、国士舘創立102周年記念式典を世田谷キャンパスの多目的ホールで挙行し、大澤英雄理事長、佐藤圭一学長、岩渕公一校長をはじめ、学園役職者、教職員、学生・生徒ら約500人が列席した。

式典では、国歌斉唱の後、本学園に在籍した物故者に対し列席者全員で黙とうが捧げられた。続いて、大澤英雄理事長が式辞を述べ、国士舘の歴史に触れながら、創立者・柴田徳次郎から教育への情熱ほとばしる薫陶を受けた一人として、「世のため人のために尽くせる心身共にたくましい若者の育成にまい進する」と決意を表した。また、「たくましい人材」とは「目標達成意欲が高く、主体的に考えて実行し、良し悪しの判断のできる知性に溢れた人材」と述べ、教職員は厳しくも温かい心で学生・生徒の潜在能力を見出せるよう努めてほしいと呼びかけた。

引き続き、永年勤続表彰、全日本・国際大会の上位入賞者・団体表彰、善行功労表彰、国士の家の代表者への感謝状贈呈、舘歌斉唱と進み、最後に全員で万歳三唱し閉会した。

（表彰者一覧は2面）

大澤理事長（右）から善行功労表彰を受ける学生

卒業生 本学で旧交温め
ホームカミングデイ

昨年11月3日、本学と国士舘大学同窓会は第18回ホームカミングデイを世田谷キャンパスの多目的ホールで開催し、全国から多くの卒業生が来場しました。

開式にあたり、佐藤圭一学長が「本学には伝統と先進性を備えた学園との評価がある。今後も卒業生の協力をお願いしたい」と述べ、大澤英雄理事長は「本学への高い評価は、国内外で活躍する卒業生の力によるところが大きい」と話した。また、国士舘大学同窓会の坂本勝矢会長は「今後も母校発展のため支援していく」と卒業生に協力を呼びかけた。

引き続き、応援団リーダー部とチアダンス部、吹奏楽部が箱根駅伝での応援演技を披露し、吹奏楽部の演奏で参加者全員が国士舘舘歌を斉唱した。

閉式後、卒業生らは楓門祭の行事や展示を巡り、旧交を温めていた。

卒業生を前に箱根駅伝での応援演技を披露する学生

佐藤学長が再任
社会変化への対応視野に

佐藤圭一学長の任期満了に伴う次期学長の選任について昨年11月27日の理事会で審議され、佐藤学長の再任が決議された。任期は、令和2年4月1日から同5年3月31日までの3年間。

佐藤学長は、平成27年12月1日に第11代学長に就任。広く教養を身に付けた公徳心あふれる人材育成を所信とし、国士舘創立100周年記念事業の完成に携わるほか、第1次中長期事業計画に基づく各事業に取り組み、学生に新たな付加価値を提供するためのさまざまな教育プログラムの構築を推し進めた。

また、全新入生への防災基礎教育の実施や地域社会との連携強化を図った。

再任により、引き続き教育改革事業の完成と時代に即応する本学教育の形成を目指す。

令和2年4月の私立学校法一部改正を前に、各私立大学では大学ガバナンス改革の一層の進展を図るなか、本学は学長選出方法の見直しを含む学内規則の改訂を進め、同元年9月に「国士舘大学学長に関する規則」を一部変更。今回の次期学長の選任にあたっては新規則を適用し、急速な社会変化に対応できうる体制を整えた。

プロフィール

佐藤圭一（さとう・けいいち）

昭和54年国士舘大学政経学部卒業、同59年同大学大学院政治学研究科政治学専攻博士課程修了。平成18年政治学博士（国士舘大学）。昭和30年9月生まれ、64歳。青森県出身。専門はアメリカ政治史。

昭和59年本学に入職。平成14年政経学部二部教授、同15年政経学部教授、同24年大学院政治学研究科長、同27年本学学長。学長任期中は同27年から武道・徳育研究所長、同30年から大学院経営学研究科長を兼務。また、同27年学校法人国士舘理事、同評議員。

そのほか、比較憲法学会理事。田上穣治賞（比較憲法学会）受賞。

鈴木監督 聖火ランナーに 向山さん

東京2020オリンピック聖火ランナーの内定者が昨年12月から順次発表されている。本学からは、体育学部准教授で柔道部男子の鈴木桂治監督と体育学部1年の向山蒼斗さん（写真）が選ばれた。鈴木監督は茨城県内、向山さんは東京都多摩市内を走る。

鈴木監督は、茨城県常総市出身。2004年アテネオリンピック柔道100㌔超級の金メダリストで、現在は柔道男子の日本代表コーチとして重量級を率いる。子どもたちが将来オリンピックを目指すきっかけになればとの思いで聖火リレーに臨む。

向山さんは多摩市在住で、本学新体操部に所属。国士舘高校時代にインターハイ優勝、本学入学後は全日本選手権個人総合で入賞するなど次世代のホープとして期待されている。「オリンピック種目ではないが、男子の新体操の魅力を世界中の人々に知ってもらう機会になれば」と応募した。「生まれ育った地元を走ることは感無量。お世話になった多くの方々に感謝の気持ちを込めて走りたい」と、意気込みを話した。

オリンピック聖火は、3月26日に福島県をスタートし、7月24日まで121日間かけて日本全国47都道府県を回る。

◇

聖火ランナーに内定した本学関係者の方はご一報ください。広報課03（5481）3115

大学ブランドイメージ調査
国士舘大生は「精神的にタフ」

日経BPコンサルティングによる「大学ブランドイメージ調査2019－2020（首都圏編）」が昨年11月27日に発表され、本学は有識者編と教職員編で学生イメージの「精神的にタフである」が首都圏調査大学120校中第1位を獲得した。

本調査はブランド評価の研究機関でもある株式会社日経BPコンサルティングが昨年8月から約1カ月間、インターネット上で調査した全国約42000人の有効回答に基づくもので、調査結果は国内を9地域に分けて有識者（ビジネススパーソン）、中学生以上の子を持つ父母、教職員（教育・研究機関従事者）の3ステークホルダーによる49項目がランキング形式で発表される。本学が属する首都圏編で第1位、父母編で第2位を獲得。このほか、「エネルギッシュである」の項目が有識者編で第9位、父母編で第12位、「リーダーシップがある」が有識者編で第12位だった。

令和元年度卒業式・2年度入学式の日程

■令和元年度卒業式

■日時：令和２年３月20日（金）14:00～15:30
■会場：パシフィコ横浜（国立大ホール）
℡045－221－2155
神奈川県横浜市西区みなとみらい1－1－1
■開場および集合時間

区　分	開場時間	集合完了時間
学　生	12:30	13:30
ご父母		13:45

■令和２年度入学式

■日時：令和２年４月１日（水）
【午前の部】11:00～11:45
政経学部、体育学部、経営学部　※大学院を含む
【午後の部】14:30～15:15
理工学部、法学部、文学部、21世紀アジア学部
※大学院を含む
■会場：パシフィコ横浜（国立大ホール）
■開場および集合時間

区分		開場時間	集合完了時間
午前	学　生	10:00	10:30
	ご父母		10:45
午後	学　生	13:30	14:00
	ご父母		14:15

●お問い合わせ　教務課　℡03－5481－3203

題字は創立者 柴田徳次郎筆
発行所
学校法人国士舘
〒154-8515東京都世田谷区世田谷4-28-1
編集　広報課
☎ 03－5481－3115

国士舘大学

国士舘大学新聞はウェブサイトでもご覧になれます

www.kokushikan.ac.jp/information/public_relations/news_paper/

年４回・25日発行（1・4・7・10月）

卒業生の皆様へ

いつも国士舘大学新聞をご愛読いただき、ありがとうございます。
発送停止やご住所の変更は下記までご連絡くださいますようお願いします。

同窓会事務局
TEL：03-3413-7303
［平日 9:00 ～ 17:00］

今号の紙面

▼創立102周年記念式典表彰者一覧……【2面】
▼三笠宮家の彬子女王殿下による特別講義を開催……【4面】
▼就職合宿セミナーを実施……【5面】
▼空手道女子・全日本大学選手権で悲願の初優勝……【6面】

国士舘大学は、東京マラソン2020に協力しています

国士舘は、世のため人のために尽くせる人材「国士」の養成を目指し、「活学」を講ずる道場として1917年に創立しました。
社会貢献すなわち「他への献身」「真心をもって人に尽くすこと」という考え方に基づく活動の一つとして、東京マラソンにおいてボランティア活動を行っています。
これからも国士舘大学は、東京マラソンのサポートに限らず、さまざまなフィールドで社会に貢献していきます。

沿道救護
2007年の第１回大会から沿道救護チームを編成し、ランナーの快適な走りをサポートしています。

多言語対応
2012年から外国人ランナーの増加に伴い、留学生を中心に救護所内で通訳対応しています。